

設立総会 議事録

開催要項

- ・ **日時**： 2009年(平成21年)3月5日(木)午後2時30分～5時00分
- ・ **会場**： 早稲田奉仕園 日本キリスト教会館 6階 6A B号室
- ・ **所在地**： 東京都新宿区西早稲田2丁目3-18
- ・ **主催**： GCAP Japan 設立準備委員会
- ・ **出席**： 46名 / 28団体参加。議決権を有する正会員数20団体中、17団体出席、3団体は書面による表決委任。

審議事項

(1) 設立総会の議長、書記、議事録署名人の選任

A. 設立総会の成立について

事務局より、議決権のある正会員申込団体20団体中、17団体が出席、3団体より委任状の提出があり、「設立総会実施規定」により、議決権を有する団体の過半数の出席が得られ、設立総会が成立したことが確認された。

B. 設立総会の議長、書記、議事録署名人の選任

本設立総会における議長、初期、議事録署名人として、以下の通り選任した。

議長： 浪瀬佳子 ((特活) WE21 ジャパン)

書記： 三宅紗知子 ((特活) アフリカ日本協議会 (AJF))

議事録署名人： 山田太雲 ((特活) オックスファム・ジャパン)、高木晶弘 (オルタモンド / CSO ネットワーク)

(2) 規約案の説明と採択

資料： GCAP Japan 規約案

まず、事務局・稲場雅紀より、規約案の概要を説明し、以下の点について確認した。

A. 名称・目的・事業

(1) 名称：

規約案11. 付則にて、運営委員会が2009年内に見直すことが明記されている通り、現在、よりよい正式名称とロゴの作成を検討している。

(2) 目的・事業

- i) MDGsの達成、貧困のない、全ての人が尊厳と共に生きられる世界の実現。
- ii) 日本が応分の役割を担うためにアドボカシーおよびパブリック・キャンペーンを行うこと。

規約案2. 目的・事業にて詳細を明記。

B. 組織のあり方

(1) 正会員の資格要件： 規約案3(3)にて明記。総会および運営委員会の母体となるNGO。

(2) サポーターの資格要件： 規約案3(4)にて明記。資金的援助を行う団体・個人。

(3) フレンドの資格要件： 規約案3(5)にて明記。活動に協力する団体・個人。

C. 意思決定機構

- (1) 総会で選出：
- i) 代表：置くことができる。正会員団体のメンバーもしくは運営委員2名の推薦を受けた人が立候補、選挙で選出。共同代表性にする場合は運営委員会で詳細を決定。
 - ii) 運営委員会：必ず置く。正会員団体のメンバーが立候補、5～10名で選出。定数を超えた場合は選挙により選出する。「設立総会実施規定」に基づき、3月2日までに立候補届を受付けた。
 - iii) 監事：運営委員会の推薦で、総会で承認を受けて選出。1名。
- (2) 運営委員会で承認：
- i) 事務局（事務局長）を置くことができる。
 - ii) チーム（ディレクター）：アドボカシーおよびキャンペーンの実施を行う。
 - iii) 顧問・連携委員：他セクター（労働組合、民間企業、財団など）との連携の便宜を図る。

総会が意思決定の場となる。今回の設立総会は、「設立総会実施規定」に基づき、実施。次回より、年次総会および臨時総会を開催する。

「規約案および設立総会実施規定の主要改正ポイント」を参照。

質疑応答・意見交換

- ・ Q1. 運営委員について、実施規定3(4)「3月2日までに応募を行った団体のみ」とあるが、本件について再検討いただけないか。
- ・ A1. 設立総会実施規定3.および5.を参照のこと。当初、応募の締め切りを2月24日に設定していたが、「3月2日まで」に延長し、その旨をご案内した。公平性を担保するためにも、この規定に従って運用することをご了承いただければ幸いに思う。
- ・ Q2. 運営委員としてご協力したいと組織で検討している。規約によると、運営委員の人数は5名以上10人以内とのことで、今回は6名の立候補者があり、あと4名の枠がある。次回の立候補の時期および選出手続きを決めていただき、ご案内いただければ、と思う。もう一点、目的・事業に関して。2013年頃には、MDGsの次の課題が見えてくるのではないかと思う。それについて、世界に向けて日本から発信する、といったことも、ご検討いただければ、と思う。
- ・ A2. 今回の総会は「設立総会」という特別な総会である。2009年度中に年間総会を開催し、予算案や年度方針を採択することになる。今回選出された第1期の運営委員で検討し、2009年度中の年会総会で選出し直すかどうかを検討したい。おそらく7月頃に年間総会を開くことになるかと検討している。もう一点、目的・事業についてのご提案を頂いた。もし文案があれば、次回の年間総会の際に変更することもできるので、ご検討いただければと思う。
- ・ Q3. 運営委員の任期は、通常「次の総会まで」であることが多いが、規約上に年度の定めがない。年度が終わったら速やかに次の総会を行う必要があるので、年度を明記し、運営委員の任期も明確にすべきでは。7月が総会であれば、第1期の任期は短くなる印象がある。
- ・ A3-1. 年度について、規約9(4)において、運営委員会により事務局を委託された団体の会計年度に準拠すると定めている。本日の設立総会で（特活）アフリカ日本協議会への事務局の委託が承認されれば、年度は「4月1日より3月31日まで」となる。また、運営委員の任期について、準備委員会の設立規定では明確に定めていなかった。7月までだと短いのは事実。一方で、運営委員を新しく担いたい団体もあるかもしれない。皆様からご意見を伺いたい。
- ・ A3-2. （会場より）役員について「再任を妨げない」とある。次回総会までは今回の運営委員で進め、次回の総会での再任も含めて、改めて選任するのが妥当ではないか。
- ・ A3-3. （事務局より）それでは、2009年度の年間総会を7月頃に開催し、それまでを今回の運営委員の任期とする。運営委員の枠を広げるという観点から、次回の年間総会においてさらに選出し直す、ということで合意をとりたい。（合意が確認された）ありがとうございます。代表についても、適任の方を見つけないかと考えている。現時点では立候補者がいなかったため、この期間においては代表は置かず、運営委員会議長が代表を代行することとする。7月頃に実施する予定の年間総会において、運営委員および代表の選出・承認を改めて行いたい。
- ・ Q4. 運営委員会や総会の議事録について、公開の期限を定めることはできないか？
- ・ A4. 8(5)議事録の公開期限について、20日間ではどうか。ご意見をうかがいたい。（会場にて合意が確認された）議事録は、開催後20日間以内に公開することとする。
- ・ Q5. 会員の権限について確認したい。総会では、正会員が議決権と運営委員の被選挙権・選挙権を持つ。サポーター・フレンズは、総会での発言権や提言権を持つのかどうか。

- ・ A5. 有する。総会に参加する権利はもちろん、書面・口頭で意見を表面する権利がサポーターとフレンズにもある。
- ・ Q6. 代表について伺いたい。役割が規約案4(2)に記載されているが、代表と運営委員会との関係性、そして代表の役割を明確にすべきではないか。
- ・ A6-1. (事務局より)代表の役割は、本ネットワークを代表すること、そして業務を総覧すること、この2点にある。ネットワークの運営は運営委員会が担う。代表の中心的な業務としては、日本社会、特に一般の方々や各界の関係者・政策決定者に対して、貧困をなくす、MDGsを達成する、という本ネットワークのメッセージをしっかりと伝えていくことと位置づけている。もし、実際に実務を行うとか、運営委員と共に業務を行う、といったことをしていただける代表がいればぜひお願いしたいが、基本的にはいま申し上げた点を代表の役割と考え、負担の少ない形で規約上は設定している。社会に対してメッセージを届けられるような方に代表になっていただければ。あまり負担のかけ過ぎる設定では、就任が困難になるので、柔軟な形で定めているが、いかがか。
- ・ A6-2. (質問者より)了解した。
- ・ Q7. 代表は運営委員に出てはいけない、という訳ではないが、出なくても良く、執行は基本的にはしない、ということか。
- ・ A7. もし運営委員にもなっていただいで運営も担い、さらに代表業務もしていただける方がいらっしやったら、運営委員と代表の兼務を禁止する規定はないので、そのような形でやることも可能。ただ、なるべく代表について、運営任務も担わなければ就任できないとなると敷居が高くなってしまっているので、代表業務のみで、執行を担わなくても就任は可能な形に定めている。
- ・ Q8. 実務的なことは代表はやらなくても良い、という消極的な形ではなく、もっと積極的に会を代表してアピールするという立場でしょうから、そう明記したほうがよいのでは。
- ・ A8. 今のご提案だが、代表について、4(2)「また、本ネットワークの目的を広く社会に普及する業務を担う。」という形で、文章を起草させていただく、ということによろしいか。(会場にて合意が確認された。)
- ・ Q9. 2点伺いたい。2.目的・事業(1)a.「・・・必要な政策を取るようにすること」という文言について、検討が必要では。もう1点、議事録について、「議長および議事録署名人の選任」を含むべきでは。
- ・ A9-1. (事務局より)2点目を反映した。1点目は、働きかけを行うという意味。文章について、もし対案があれば。
- ・ A9-2. (会場より)結構です。
- ・ Q10. 細かな点だが、2(1)a.「上記目標」は「上記の目的」と修正すべきでは。
- ・ A10. 反映した。ありがとうございます。

会場にて議長より、規約についての採択の確認がなされた。議決権を有する正会員より過半数の賛成があり、採択された。

(3) 運営委員の選出と承認

資料：GCAP Japan 運営委員立候補届(6名分)

議長より、運営委員に立候補している6名の紹介がなされ、各人による所信表明が行われた。

(特活) オックスファム・ジャパン 山田太雲

昨年のG8サミットNGOフォーラム貧困・開発ユニットで政策提言に取り組んだが、流れを大きく動かすには、数が必要である。対外的なアドボカシーが効果を持つには、直接の働きかけはもちろん、世論への働きかけが必要だと痛感した。洞爺湖までに培った流れを今後も作り上げていきたいという強い思いから、準備委員会にも関わらせていただいできた。引き続き、本ネットワークの運営にも関わりたい。

(特活) 国際協力NGOセンター(JANIC) 下澤嶽

今回、運営委員に立候補した理由の一つとして、JANIC自身がMDGs促進を大きなミッションに掲げて2000年以降から活動してきたことがある。GCAPとJANICとで目的を共有しており、ともにつながりながらできることが多いと考えた。また、昨年のG8サミットNGOフォーラムの活動で、G8各国のNGOネットワークとGCAPとが連動していることが多いことも実感した。MDGsの普及において、重要な時期に来ていると考えているので、関わらせていただきたい。

(特活) ワールド・ビジョン・ジャパン 片山信彦

(議長より) 到着が遅れるとの連絡を頂いているので、立候補届を参照いただきたい。

(特活) アフリカ日本協議会 (AJF) 稲場雅紀

G8 サミット NGO フォーラムでは、政策チームと保健医療ワーキンググループで政策提言業務をさせていただいた。より大きな変革をもたらすためには、より多くの国民・市民の支持が不可欠。2015 年まで恒常的により大きな枠組みを作り、しっかりとより長期的なビジョンを持って、国民市民の支持を作っていくことが大事だと考えた。貧困をなくすため、MDGs 達成のために、パブリック・モビリゼーションで社会的支持を作っていくことをやりたい。支持を作り出すこと、政策提言をすること、この 2 つを軌道に乗せるためのガバナンス面の担い手としてやりたい。

オルタモンド 田中徹二

オルタモンドは小さな団体だが、「ほっとけない世界のまずしさ」のころから加わり、G8 サミット NGO フォーラムでも活動させていただいた。MDGs について、これから多くの NGO とともに、日本だけではなく世界的な規模でやらなければいけない。世界金融危機・大不況ということで、今が途上国の貧困問題の正念場。日本の多くの市民、世界の市民と手を携えていくツールとして、GCAP Japan を盛り上げていくその一助となれば、と思い、立候補した。

(特活) ハンガー・フリー・ワールド (HFW) 富田杏子

気がつくまで運営委員のなかで紅一点で、何が何でもやらなければいけないという気持ちでいる。「ほっとけない世界のまずしさ」設立後に、日本に帰国し、ムーブメントを知って実行委員に加わった。スタンド・アップの実行委員も務めた。HFW ではベナンの事業を担当しており、アドボカシーやパブリック・モビリゼーションは本業ではないが、現場で様々な課題に直面しているからこそ、啓発の重要性を認識している。また、現場の NGO の連合体のムーブメントでたくさんの方が実現してきたのを見てきた。そういった日本での担い手となれば、と思い、立候補した。

以上 6 名の運営委員立候補者について、設立総会実施規程に基づき、議長より承認の確認がなされた。会場にて、拍手により承認された。

(4) 監事の選出と承認

議長および事務局より、GCAP Japan 準備委員会で以下の方に監事を依頼していることを紹介。

監事：公認会計士 鈴木ふみ

会場にて、拍手により承認された。

(5) 年間方針および 2015 年までの概要の説明

資料：パワーポイント 2 枚

2015 年までの活動タイムフレーム

- ・ 2015 年末までが原則として本ネットワークの活動時期。
- ・ 昨年の世界金融危機で、Crisis がずっと言われている。燃料危機もずっとあった。2015 年にどういう世界になるのかについて、だれにも予測がつかない難しい状況。その中でも MDG を達成していく観点からしっかり活動していきたい。大体のシナリオを大枠で考えると、前期・中期・後期に分けた。
- ・ 【前期】2009～2010 年：まず来年 2010 年が大きな年になる。1960 年にアフリカ 17 カ国が独立して、ポスト植民地時代を築いた 1960 年の「アフリカの年」50 周年、この年に合わせるかのようにサッカーの世界カップが南アフリカで開催される。ご存知の通りアフリカは、MDGs 達成が一番難しいといわれている地域。また 2010 年は MDGs 達成期限まであと 5 年を残す、焦点化される年。このようにパブリック・モビリゼーションの観点でいえばワールドカップ、政策提言でいえば国連 MDGs

特別総会があり、名古屋では生物多様性条約締約国会議も開催される。貧困と生物多様性の問題が連携される形に持って行く必要がある。このように、2010年は核になる年と考えている。2009年に、2010年に向けた準備を行わなければならない。スタンド・アップまでは半年間以上の時間を持ち、基盤整備を2009年にしっかり行い、貧困への社会意識を変える年として、2010年のパブリック・モビリゼーションと政策提言を成功させていきたい。ここで一つの変化を起こしていく。

- ・ 【中期】2011～2013年：MDGs達成に日本が貢献するために、日本のODAの量の拡大・質の向上をじっくりともたらしめていく。2013年には、第5回アフリカ開発会議（TICAD V）がある。アフリカにとどまらず貧困を解決するための資金を日本がしっかり出して、国際協力の現場の構造をいかに変え、よりよいものにしていくか。そういう意味で中期が重要になる。
- ・ 【後期】2014～2015年：MDGs達成の状況、達成できるのか、どういう問題が残るかが、判明してくるのが後期。前期・中期の流れの中で、長期的なプランを考えながら、メリハリをつけて活動していきたい。
- ・ スタンド・アップ：環境問題ではアースデーや100万人のキャンドルナイトといった、全国規模のアクション・デーやキャンペーンが存在している。ところが、貧困やMDGsの課題については、全国に知れ渡っている記念日やキャンペーンがない。10月17日、世界反貧困デーに実施するスタンド・アップをそういった日にしたい。また、10月16日の世界食料デー、10月6日の国際協力デーなど、国際協力に関わる記念日が目白押しの10月を焦点化して活動することで、これまでのようにイベントごとのフローだけではなく、継続して関わっていくストック（蓄積）を作っていくことが私たちの目的。
- ・ 2009年の事業計画アウトライン：ネットワークの基盤を固めていき、多くの人に参加できる仕組みをパブリック・モビリゼーションとアドボカシーで作っていくことを考えている。その中で、衆議院選挙も行われ、イタリアでのG8サミットでは、保健やMDGsが大きな課題になってくる。イタリアでODAが削減される状況の中で、いかにG8のコミットメントを守っていくかが課題。来年度予算をめぐって、ODAに関するアドボカシーも進めなければならない。スタンド・アップを中心とするパブリック・モビリゼーションの事業計画および政策提言計画をなるべく早い時期で作っていきたいと考えている。

(6) チームの説明・質疑応答

議長より、政策チームおよびパブリック・モビリゼーション・チームの説明について、担当のGCAP Japan準備委員会メンバーが紹介された。

【政策チーム】担当：オックスファム・ジャパン 山田太雲

これまで、GCAP Japan準備委員会の中で政策チームを暫定的に行ってきた、チームのディレクターの役割を仰せつかっている。G8サミット終了後、NGOフォーラムの活動をどのような形で引き継ぐかを検討してきた。まず、イタリアに洞爺湖の成果がいかに引き継がれるか。イタリアでは洞爺湖の成果文書を弱体化する動きがあったという情報もあり、心配していた。一方で、今回の金融危機で、世銀・IMFの正当性への疑義が先進国からも出るような、今までとは違う状況が生まれてきている。その中で、GCAP Japanの暫定的な政策チームとして、以下の活動を行ってきた。

- ・ G8プロセスのモニタリング
- ・ イタリアにおけるGCAPの戦略会議・記者会見に参加
- ・ ニューヨークでの国連MDGs会合に参加
- ・ ODAの量・質についての会議（アクラおよびドーハ）をモニター
- ・ 11月にワシントンであった金融サミットでのロビイング
- ・ （時期は未定だが）衆議院選挙に向けて、各党のマニフェストの中でMDGsを国際協力における上位課題に位置付けてもらうための要望書の提出
- ・ G20ワーキンググループへの日本からの参加

今後、GCAP Japanの政策チームとしては、既に活動しているイシュー別のアドボカシー・ネットワーク（教育＝JNNE、保健＝GII/IDIなど）と（重複・競争せず）支えあえるような、相乗効果をもたらせるようなチームを作り、ODAの上流の政策に関わるアドボカシーをやっていきたい。

これからはさらに貧困を生み出す構造的な問題、国際貿易や気候変動についても取り組んでいきたいが、現在の暫定的な政策チームメンバーではキャパシティが足りない。これから正式にチームが置かれたときに、ぜひご興味のある方に参加いただきたい。

【パブリック・モビリゼーション・チーム】担当：ハンガー・フリー・ワールド 富田杏子

今、暫定的な政策チームの説明があったが、同じく暫定的に動いていたパブリック・モビリゼーション・チーム、キャンペーンや世論作りを担うチームについて説明したい。現在のパブリック・モビリゼーション・チームは、2008年のスタンド・アップ実行委員会を主に担ってきたメンバーで構成されている。2008年のスタンド・アップを報告書という形でまとめたので、ぜひご覧いただければ。10月にどんな動きが日本中で起こったかをまとめている。これまでにチームとしては、2008年の総括を含めて、2009年の計画をどうするか議論してきた。また、今回 GCAP Japan については、まだ正式な日本語名称とロゴがないので、この私たちのアイデンティティーを決めていくこと、私たちが外の人にどう見てほしいか、そのたたき台を作る議論をしてきた。

パブリック・モビリゼーション・チームの活動の柱は2つある：

- ・ 毎年積み重ねるもの：「スタンド・アップ テイク・アクション」毎年10月17日の反貧困デーに世界中で立ち上がり、ギネス記録を更新していく世界同時アクション。
- ・ 時期に応じてアクションを起こすもの：アフリカの年50周年、TICAD、MDGs 達成年、といった時事的な時期に合わせて、ムーブメントを起こしていくこと。

多くの人が恒常的に、いつでもアクティビストとして動いていけるような仕組みを作ることを活動の中心にしたい。それにあたって重要なのは、政策チームで担う政策アドボカシーと、世論を作ることを担うパブリック・モビリゼーション・チームが両輪となって活動していくこと。今のところとても少ない人数でやっているが、今日いらっしやった団体の中にも、たくさんの会員やボランティアの方、潜在的なアクティビストの卵をかかえていらっしやる団体がある。いろんな方がいるほど活動の盛り上がりを生み出していけるので、ぜひパブリック・モビリゼーション・チームに入って、活動を盛り上げてほしい。

議長より、質問の有無が確認された。

(7) 休憩 / 第1回運営委員会開催（運営委員会議長を互選）

第2部：事業関係議題～意見交換ワークショップ

ファシリテーター：ピースポート 小野寺愛、高山瑤子

小野寺：今日ご参加くださった46人分のGCAP Japanをこんなネットワークにしようじゃないか、こんなことをすればいいのでは、といったお知恵を拝借して、今後に生かしていきたい、という考えのもと、ワークショップを行いたい。

まず、GCAP Japanはこんなイメージであってほしい。世の中の人に～～ですと思ってほしい、といったイメージを、お一人最低1つ書いていただいて、たとえば若い人の絶大な支持を誇る団体です、といった感じで、お一人1枚以上書いていただき、グループ・ディスカッションをして、マッピングして、最後共有して高めていく、というワークショップを考えています。

まず、ワークショップに入る前に、私たちにインスピレーションを湧かせるためのご紹介をしたいと思います。

これはゴールということで紹介するわけではなく、自由に全く新しいものを作り上げてもいいわけなので、あくまでもインスピレーションを湧かせるためのサポートツールとして、考えていただければ。

2015年までのプランの中で、環境ジャンルの中ではアースデーや100万人のキャンドルナイト、アースデーは15万人を東京だけで集めるものになり、キャンドルナイトは環境省が乗っかり、日本中に広がり、800万人が電気を消した。パブリック・モビリゼーションとして、たくさんの人に広げることが可能な例はすでにいくつかあるので、それを見ていきたい。

山田：これからピースボートの二人にファシリテート頂きアイデアを出すときにインスピレーションになるものがあればよいかな、と思い、立っているが、ご紹介したかったサイトが立ち上がらないので、後でMLを作ったときにURLをお送りしたい。

【サイト URL】

<http://standup2015.jp/>

<http://www.whiteband.org/>

<http://www.wadanatodo.net/>

<http://www.makepovertyhistory.ca/>

<http://www.makepovertyhistory.com.au/>

<http://www.deine-stimme-gegen-armut.de/>

<http://www.avaaz.org>

これはオーストラリア、カナダ、ドイツ、インドなどの GCAP サイト。いろいろあるが、私が一番すごいと思ったのがインドの「Wada Na Todo Abhiyan (約束を守れ)」が実施した「Nine is Mine (“9”はわたしのもの)」というキャンペーン。これは、インドの GDP「9%」を教育・保健に使って下さい、とインドの子どもたちが先頭に立って、インドの政治家に要求する、というアクションを行ったもの。たくさんの人が集まり、俳優が鉛筆を掲げて名前をボードに書き、そこに大臣が来て約束をした。実際の次の年のインドの教育・保健予算は増えた、という実績を生んだ。まだ9%には達していないが、効果を持っている。また具体的なアプローチとしては他に日本に沿ったものがあると思うが、キャンペーンがそういったインパクトを持てる、という好例。

【動画 URL】

In My Name:

<http://www.youtube.com/user/inmyname?gl=JP&hl=ja>

国連で去年9月にハイレベル MDGs 会合が行われたときに発表された GCAP の In My Name。アンジェリーク・キジョー（ベナン女性歌手）がテーマ曲を歌っている。「私は~~の~~です。私のリーダーには、世界の貧困をなくすために==をしてほしい。本来は、私が言うべきでなく、あなたが私たちに言うべきですよ」といった政策決定者に対する激励のメッセージを集めるもの。In My Name のローンチのときには、国連広場で歌手も歌を歌い潘基文国連事務総長も来た。YouTube でたくさんの人が観て署名している。

Lost Generation :

<http://www.youtube.com/watch?v=42E2fAWM6rA>

GCAP とは直接関係がないが、お手元に英語で表裏の詩のような資料をお配りしたものを参照いただきたい。「Lost Generation (失われた世代)」と題するこのビデオは、アメリカで8年間のブッシュ政権時代に多感な時期を過ごした人たちの気持ちを表現したもの。英語の詩がだんだん下から上に流れていく。内容は、気分の落ち込む内容だが、最後に、「これを逆転しなければ、ここで言ったことは本当になってしまう」と読み上げられ、そしてビデオを逆転させる。そうして下の行から同じ詩を読んでいく。全く反対の意味になって、勇気づけられる、というもの。英語で上から読んでから、下から読んでいただくと、わかると思う。日本語訳も添付した。

ビデオ上映

もし GCAP に出会った日本のこの世代の人たちが、こういう気分転換をもつことができたとしたら、それ自体すばらしいことだと思う。目的は世界の貧困問題とリンクしているが、それを社会的な土台のある形で政策にインパクトを与えるには、こういう気持・自己認識を持ったアクティビストが増えるのが大事ではないかと思い、紹介させていただいた。

小野寺：もしほかにこういった事例をご存知の方がいらっしゃったらシェアしていただきたい。それでは早速、会場の皆さん、40人ちょっといらっしゃる、6~7人のグループ6つに分かれて、各チームでアイデア・ご意見を出していただきたい。机2~3つ分で1チーム。

5チーム結成された。

GCAP Japan は_____です。【こんなネットワーク】(黄色の付箋)

そのためのアクション・プランは_____です。(ピンクの付箋)

- A. まずは個人で書いていただく。
- B. グループで意見交換

ルール3つ：

- ・ プレストなので、人の意見を否定しない
- ・ 人の意見を遮らない
- ・ グループ・ディスカッション(15分)ったら、黙ってファシリテーターは手をあげる。気づいた方は、黙って、口を閉じて手をあげてください。全員気づいたら口を閉じた状態になると思うので、15分のグループ・ディスカッション後、皆さんのご意見をグループで発表いただきます。

高山：プレストなので、具体的に。「認知度が高く」 どれくらい？ 小学校？ 「市民社会」=具体的にどんな人を巻き込むネットワークになりたいか？

グループ・ディスカッション終了

(5グループのうち2グループが、議論に集中してしまい、最後まで時間が終了してファシリテーターが手をあげたことに気がつかなかった。)

高山：GCAP が世界に発しているメッセージのひとつに、“Listen to the Voices of Unheard” というのがある。たとえ声が聞かれなくても、みんなで決めたルールを守っていこう、というのを、私たち自身も守っていければ。

それでは、各グループ1～2分で発表してください。
あるコミュニティが時間を超過すると他のコミュニティの時間を奪ってしまうので、2分以内をお願いします。

1. 田中・浪瀬グループ

- ・ 日本の、声の代弁者、世界が幸せになる、助け合いの運動、いつもみんなで一緒に。
- ・ 性質：愉快的なもので楽しい集まりである GCAP
- ・ GCAP:誰でも知っている、週刊こどもニュースのお父さんが説明するくらい普通になっていて、誰でも知っていることに。
- ・ 1億3千万人のネットワーク
- ・ 誰でも参加できるネットワーク
- ・ YouTube やネットもあるが、マニフェストのことがあったように、総選挙などを上手に使っていこう。
- ・ 子どもも加わる子どもサミット
- ・ 参加している人が実感できるもの
- ・ ディズニーランドと連携
- ・ 宮崎駿の気持ちを動かしアニメつくる
- ・ 使える手段はどんどん使って、大きなネットワークにできれば。

2. 山田・富名越グループ

- ・ 「貧困」を目標に掲げている。貧困とネットワークについて議論した。
- ・ 2つのアウトカム:(1)ネットワークのグローバル化、Noと言える団体の拡大、普及
- ・ (2)教育が大事。官民の連携を図る上で情報共有を広く一般市民だけでなく NGO 自身も情報共有・知識をシェアしながら声を広げる・浸透させる。貧困とは何か、キャンペーンをやる。まずしさに No というスタンド・アップ等のキャンペーン、といったイメージをまとめた。

3. 稲場・石原グループ

- ・ キャラクター：フェアをめざす、世界の裏側を見つめる（地球の裏と構造の裏）
- ・ 目標：貧困のない世界実現の発信基地、MDGs のフロント・ランナーになる。
- ・ 主体と広がり：貧困なくす、NGO 一緒に、全ての人のため、といった主体性を持って貧困という問題で広がりを持っていく。
- ・ アクション・プラン：キャラクター政策。課題ごとの発信力をつけていく。途上国の子どもの意見を取り上げる。
- ・ アクション・プラン目標：MDGs 達成。
- ・ アクション・プラン主体と広がり：具体的なプロジェクトを作る、共有して提言まで持っていく、認知度を高める、学生ネットワークと連携、NGO と一緒一つのネットワーク、障害者も「すべての人」の中に入れる、海外だけでなく、国内の貧困問題にも目を向ける。

4. 富田・谷村グループ：

どこよりも早く手を挙げた、気づくことには長けていたがまとめることには長けていなかった。

- ・ イメージ：希望、連帯、日本・世界をつなぐ連帯、国や世代を越えて。
- ・ あり方：アメーバ、ファシリテーター。つなぐ。
- ・ 実行力、地に足をつけて成果を出していく。
- ・ HOPE：ポジティブ、貧困のない世界の仕掛けを見せていく。
- ・ アクション・プラン：まず、何をやるにも方向性を共有し、方向定め、一過性でなく継続的にアクションを動かしていく、イベントに終わらない、目標設定も必要。成果を参加者が体感できるということによって持続性も担保される。貧困のない世界 = もやもやとしたものではなく、生活者の視点に立って、映像やビデオの活用、日本の貧困問題との連携を示すことで、一人一人の生活の中にある問題として提示することが必要。また、世界の GCAP のコピーではなく、日本の文脈、日本の一人一人に合った戦略、個性的なコミュニケーションも必要。

5. 下澤・片山・稲江グループ：

最後に慌てて手を挙げたグループです。

- ・ 立ち姿：市民全体のネットワーク、これまでにない団体、世界の窓、地球市民の幸せをめざす、全員・全体と連帯するイメージ。
- ・ 目的：MDGs にこだわらず、周縁に追いやられた人たちのニーズを食い込む。幅広い人たちと連帯。社会的構造や不公正をタックルする。
- ・ アクション：Focus したことは、GCAP がアドボカシーのコンテンツも大事だが、やはりみんなが知ってなんぼの世界。どうやって知名度を上げていくか？ 目標に近いが、すべての小学校でスタンダード・アップが行事になるとよい。GCAP のキャラを作ってアニメなどに登場。どうやってみんなが知る組織になるか？ あり得ないとは思いますが、私鉄で走っているのを止めて、STOP！皆さん協力してください！という映像を流せて、新聞に流して「これ何？」 実は目的はこれです！みたいな、とにかく衝撃的にみんなを巻き込んで「今のはいったい何なんだ」あとからじっくり説明する、といったアクションもあるのでは。

高山：ユニークな意見が出てきて具体的な意見もたくさんあったが、聞きながらキーワードをピックアップしてみました。

小野寺：GCAP Japan のイメージを見るとかぶっている言葉があった。

多かったもの：貧困のない世界を作る、ポジティブなものであるべき、「つなぐ」キーワード、誰もが知っていること。

具体的なアクション・プランについては、あまりかぶることがなかった。発表されなかったものの中でも面白い意見がたくさんあった。教育については、どのグループにも学校で伝えるという案が入っていた。

日本に既にある貧困系のネットワークがある中で GCAP をつくるにあたって、GCAP のブランド力、他と

の違いが少し浮き彫りになった感じがします。まだ5分くらい時間あるので、率直な意見交換や協調したいことを頂いて、議事録にも大まかなことは残るので、この後につなげていきたいと思う。ご意見や言いそびれたことはありますか？

高山：もっと聞いてみたい、というご質問もあればぜひ。

Q1：あまり詳しくないので教えてほしい。GCAPと同じようなネットワークはあるのか？ 日本国内に。

A1：何を持って同じようにするかだと思うが、もう少し特定の課題についてキャンペーンをやった例は、地雷廃絶キャンペーンや2000年の債務帳消しのためのジュビリー（国内・国際）などがある。

Q1：貧困はこれくらいでは。

A1：扱う 이슈が広範に渡り、既存のところ以外にも広がりをもって波を起こしていこう、というのはGCAPの特性。

小野寺：イシュー・ベースでは他にも存在するようだ。環境については、「Make The Rule」というキャンペーンができていて、名称も白クマのロゴもできていて、5万程の署名を集めているという話を聞いている。

他にご意見は？

C(Comment)1: 右側の具体的なアクションの中で、実現できたら素晴らしいと思うのが、市民が自分で地元の政治家へロビイングするためのトレーニング、ツールキットをGCAPが用意する、といったことをオーガナイズすればよいのかな、ということ。人の心理として、官僚が自分の意見を聴くだけでエンパワーされた気分になる、というのはあると思う。電車でびっくり！という案もそうだが、一方でまた、世を仕切っていると自己認識している人たちに自分の意見を届ける、というのは記憶に残るものになると思うので、それはぜひできたらいいと思う。

C2: このジャケットにMDGsのバッジをジャラジャラと9つつけている。「ほっとけない世界のまずしさ」のときにつくったものだが、1個だと地味で人の目につかないが、これだけならんでいると「なんですかそれ？」とだいたいいわれる。山田さんがおっしゃる「自ら声を出す」活動も大切だが、一方で少しハードルが高い、ということもあると思う。バッジをつけるのも恥ずかしいけど、「それなんですか？」と相手に言わせる、というのも、やり方として一つある。これを着てあるレセプションで民主党鳩山由紀夫さんに会ったとき「なんですかそれ？」と言われて、MDGsについてお話しして、鳩山さんには伝わっているはず。このようにイメージできるグッズがあるとよいのかな、と思う。

C3: 「一人一人にお手紙を書く」チェルノブイリ原発事故の後、日本の中で反原発運動の大きなうねりがあって、日比谷公園でデモをすることもあった。大きな働きかけをした、一人の女性が友だちに世界で一番長い手紙「まだ間に合うのなら」というタイトルで、ブックレットになった、親しい友達に訴えた手紙が印刷されてたくさん人の手に渡った。そういう特別な人ではない人の心からの思いをつづったものが本になって読まれるようなことも、アクション・プランとしては結果に結び付く可能性があるかも、と思い紹介した。

C4: お手紙は私が書いたポイントだが、日本リザルツは毎月マンスリーミーティングで市民の方に来ていただき、貧困・結核の問題で麻生首相に手紙を書こう、ということを継続している。数が少なくてもインパクトがあるのでもっと広げれば。あと、目に見える形で訴えるのは大事。新聞やテレビに出るのもあるが、個々人のレベルで目に見える形。GCAPとせっかく行っているのだから、たとえばGCAPというキャップを「それ何？」ときかれたら、宣伝できるような。「GAPですか？」リアクションが帰ってくる。聞かれるような見える形にすれば、いくつかの質問への回答レポトリーを用意して、デモやパレードで必ずかぶる、電車通勤でかぶる、職場；学校に行く、等、マスコミもどこかの時点で取材に行きたい、というのも面白い。デザインが得意な人などにコストをかけずに、企業タイアップでお金に。似通っているから理解いただければ。営利目的ではない、非営利で。企業もそういうものも社員の方につけていただいたり、労組を巻き込んだり、それも面白いのでは。

小野寺: これはジャパンからインターナショナルに提案できるかもしれない、ユニバーサルな案ですね。

時間となりましたので、ワークショップは終了します。

前半ご覧になってお分かりのとおり、GCAP Japan はできたばかりの団体で、運営委員の方にも、事務局を担う AJF にも、これからも頻繁にアクセスしていただいて、みんなで作っていくネットワークになればいいな、と思います。ご協力ありがとうございました。(会場より拍手)

(9) 閉会の辞

アフリカ日本協議会 (AJF) 稲場雅紀：長丁場となりましたが、皆さまご参加いただき、本当にありがとうございました。ワークショップでもたくさんのヒントをいただきました。これから、皆で参加できる、みんなでやっていくものを、そしてインパクトがあるものを、2015 年まで長期的に広げていければ、と思います。そして、よりよい世界、貧困のない、誰もが尊厳をもって生きられる世界をめざして、政策提言とキャンペーンを行いたい。皆さんで力を合わせて 2015 年中にやっていければ。

なお、先ほど運営委員会を開き、事務局は AJF で、議長は私が務めさせていただくことが決まりました。次回年間総会に向けて、代表になってくださる方を探して、また、もっと開いた形で多くの方に運営委員になっていただく、という形にしたいと思います。皆様、どうぞお力添えのほど、よろしく願い致します。最後に、旧来的な締めをしたいと思っております。これからの GCAP の成功を願って、お手を拝借。 会場にて、一本締め

ありがとうございました。

議長は、以上をもって貧困のない世界の実現をめざすネットワーク日本 (仮称) の設立に関するすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣言した。

以上の議事の要領および結果を明確にするため、議長ならびに議事録署名人は次に署名押印する。

平成 21 年 3 月 5 日

貧困のない世界の実現をめざすネットワーク日本 (仮称) 設立総会

議長 浪瀬 佳子 (印)

議事録署名人 山田 太雲 (印)

議事録署名人 高木 晶弘 (印)